

○「普賢寺地区で米生産の合理化を」

(京都府京田辺市普賢寺地区第2回連絡会議)

担い手への
農地利用の
集積・集約化

遊休農地の
発生防止・
解消

新規参入の
促進

その他
(農業委員会の
体制強化等)

1 活動の日時や時期、場所等

- 日時(時期): 平成30年10月25日午後7時～9時
- 場 所: 普賢寺ふれあいの駅
- 出席者: 委員4人、委員以外2人
農業会議 多田補佐
- 報告者: 今井 農業会議現地推進役

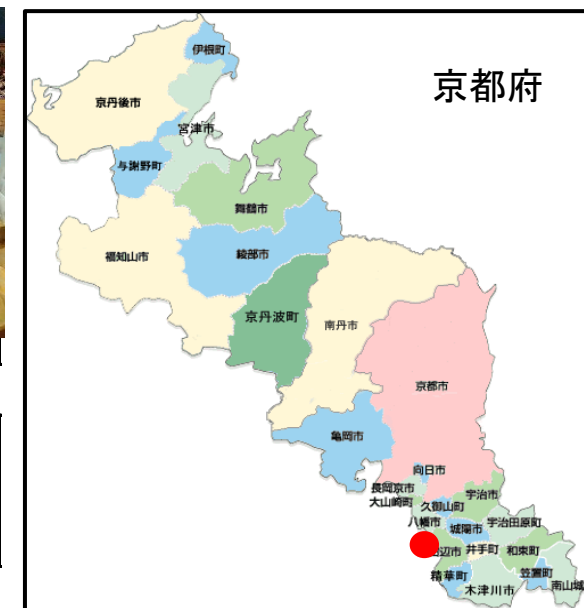


マスコット 普賢寺米くん

2 地区の特徴、状況、課題

○京田辺市は関西学研都市に位置し、近鉄、JRが市の中央部を南北に走り、京都市、大阪、奈良への利便性が良く、丘陵地を中心に新興住宅地が開発され、都市化が進み、人口が増加している。

○水稻を中心になす、玉露、てん茶、えびいもなどが栽培されているが、高齢化により生産力が低下してきている。



3 課題解決に向けた活動(農地利用の最適化推進の取組と工夫)

- 普賢寺地区は、市の南西部の中山間地域に位置し、水稻、花き、果樹などが生産されている。
- 普賢寺ふれあいの駅は、地元農産物の直売所と併せて、都市住民との交流の拠点となっている。
- 各区の前回からの進捗状況を報告、意見交換し、連携による米生産の合理化を進めることに合意した。
- 天王ライスセンターは現組織を解散し、新たに農家組合の下部組織として、来年4月に発足する予定。
- 打田区は若手の考えを聞くための取組を検討するとともに、他の区との連携拠点となる組織づくりが必要。
- 普賢寺区は、ルネッサ普賢寺を中心に普賢寺米ブランドの商品づくりにより、米を高く売っていく取組を進めている。売れ行き次第では、米づくりへの意欲が高まり、普賢寺地区全体の連携につながることを期待。

4 活動結果

- 情報・意見交換 2 時間
- 担い手への集積 a 増加
- 遊休農地面積 a 解消
- 新規就農者 人 支援